

天下人（峰章山）

尊父は 尾張 足輕の 兵

頭脳 明晰なり 幼少の 頃

深夜の 遭遇 盜賊の 孟

身を 委ね 転々として 名声を 高む

信長 之を 用いて 征伐を 重ね

秀吉軍を 率いて 百を 争いて 制す

主君 倒れて 及ぶ 清州の 議

天下を 治めて 築く 大阪の 城

尊父尾張足輕兵 頭脳明晰幼少頃

深夜遭遇盜賊孟 委身転々高名声

信長用之重征伐 秀吉率軍争百制

主君倒及清州議 治築天下大阪城

解説 戦国時代から安土桃山時代にかけての武将、大名。天下人の豊臣秀吉を詠った詩。

語釈 ※尊父||実の父親を呼ぶ際、より敬意を示したい場合に使用。※頭脳||あたまのはたらき。知力。※幼少||秀吉の父が亡くなると、近所の光明寺に入れられたというが、寺院の生活に飽き寺を抜け出して各地を放浪した。

※遭遇||めぐり合うこと。であい。※孟||蜂須賀小六を言う。※名声||名誉ある評判。ほまれ。※征伐||反逆する者を攻め討つこと。※清州議||清州会議とも呼ばれ、織田家の継嗣問題及び領地再分配に関する会議。※大阪城||「太閤はんのお城」と親しみを込めて呼ばれることもあるが、天正十一年）から慶長三年にかけて秀吉が築いた城。

通釈 秀吉の父は足輕で有ったが、秀吉の幼少時代は頭脳明晰であった。寺院を抜け出し各地を放浪していた時、金が無く橋の上で一夜を過ごそうとした時、そこへ登場したのが、野武士集団を纏めていた盜賊の蜂須賀小六に遭遇。小六に身を委ね転々としていたとき、信長に拾われた。頭脳明晰、要領の良さ、

度胸の良さを買われて、信長の一武将となったが、戦いは百戦錬磨の働き。本能寺の変で信長暗殺され、清州会議で後継者指名を受けると、賤ヶ岳の戦いで柴田勝家を破り、秀吉の天下取りとなった。